

G.F.ヘンデル (1685-1759)

トランペットとソプラノによるアリア

「炎に列なれ輝くセラフィムに」

カルチャーナイト × チェンバロナイト

D.ガブリエッリ (1640-c.1690)

トランペットソナタ 第5番

7月13日(金)

18:00 ~ 19:30

1階 知の交流コーナー

A.カンブラ (1660-1744)

カンタータ 第5番「アリオン」より

S.L.カミュ (c.1610-1677)

「愛よ、残酷な愛よ」

アイルランド民謡

「柳の庭のほとりで」

J.S.バッハ (1685-1750)

フルートとチェンバロのためのソナタ

BWV1032 第1楽章

A.パーチャム (befor 1700)

リコーダーのためのソロ

B.ストラーク (17C後半)

チャッコーナ

イラスト:市立札幌大通高校
中田小百合

☆座席数は40席程度になります。それ以上は立ち見になりますのでご了承下さい。

北海道大学総合博物館

札幌市北区北10条西8丁目 Tel. 011-706-2658

ポプラこの古の大志、札幌の地に育まれ

2004年 嵐によって倒れ

2006年 ここに蘇る

(チェンバロに刻まれたラテン語の銘文)

明治36年(1903年)に植林されて以来、樹齢100年に至る今日までポプラ並木は、本学のシンボルとして学生や市民に親しまれてきました。ところが、平成16年の台風18号により半数近くが倒壊してしまいました。

再生を願う声が全国から寄せられ、北大はポプラ再生事業に着手し、世界にも例を見ない30トンにもおよぶ倒木2本の立て直しに成功しました。倒れたポプラ並木を木工品として蘇らせるというプロジェクトも進められ、ポプラは様々な工芸品に生まれ変わります。その代表作が、チェンバロです。

チェンバロ製作のご提案は、北海道教育大学の市川信一郎教授から、製作は、横田ハーブシコード工房の横田誠三さんをお願いしました。昔のヨーロッパでは、ポプラでチェンバロなどの楽器がつくられることもあったそうですが、現在ではめずらしい試みといえるでしょう。

完成まで2年の歳月が費やされ、キャンパスカラーの緑色で縁取りされたチェンバロには、100年の歳月を生き抜いたポプラの深みを感じられます。

(北海道大学総合博物館ホームページより)

チェンバロ	新妻 美紀	歌	谷川千佳子
バロック・トランペット	内藤由美子		大友 弥生
フラウト・トラヴェルソ	吉岡 充弘	リコーダー	田崎菜津子 中村 会子